



絵画は語る

—上原コレクションのストーリー—

上原佛教美術館 開館40周年記念



2023.10.7 | 土 | — 2024.1.8 | 月祝 | 会期中無休

開館時間 | 午前9時30分 - 午後4時30分 (入館は午後4時まで) 入館料 | 大人1,000円／学生500円／高校生以下無料 * 佛教館・近代館の共通券です * 団体10名以上は10%割引

アンドレ・ドラン《裸婦》1929年

伊豆に逢う

出逢う

上原美術館の40年

昭和五八年五月二九日に開館した上原仏教美術館は翌年六月から伊豆南部の寺院の調査に着手。その後平成二十九年に上原近代美術館と一つになり、上原美術館になつてからも調査を継続し、伊豆に数多くの優れた仏教美術や文化財があることを明らかにしてきました。

阿弥陀如来像(写真①)は美術館の正面にある、

下田市向陽寺から見出された仏像で、西川新次氏

(当時は慶應義塾大学教授)により、十世紀後半か

ら十一世紀半ばの像とされました。当館が最初に

出逢った伊豆の平安仏の一体で、現在知られて

るものとしては、伊豆最古の阿弥陀如来像です。

松崎町吉田寺の阿弥陀三尊像及び毘沙門天像

(写真②)は、昭和六二年十一月の調査で見出された

仏像です。本像は水野敬三郎氏(当時は東京藝術大

学教授)による調査、昭和六三年十二月から翌平

成元年十二月の修理を経て、平成七年三月、伊豆

を代表する鎌倉仏の一例として、静岡県指定有形

文化財となりました。



② 阿弥陀三尊像（鎌倉時代）静岡県指定文化財 松崎町・吉田寺蔵 ※上原美術館に寄託

古くから知られていたものの、近年の調査研究により、新知見が得られた像もあります。従来仁王像とされた、河津平安の仏像展示館の二体の天部像(旧南禅寺伝来、表写真下)は、調査を経て二天像とされ、さらに近年の調査で、現在は失われた像のものと考えられる腕が新たに確認されたことから、現在は四天王像のうちの二体が残ったものと考えられています。さらに、本像を含む当初の二六体の平安仏群については、近年、伊豆諸島の火山活動を契機に造像されたとする説が得られています。

本展は、上原仏教美術館開館四十周年を記念し、

長年にわたつて伊豆半島の仏像調査の最前線にあり続けている当館の活動を、調査した仏像の展示を通じて振り返る展示です。知られざる伊豆の歴史を秘めた、仏像との出逢いをお楽しみください。



毘沙門天像（平安時代）下田市・吉佐美区

① 阿弥陀如来像（平安時代）下田市・向陽寺蔵 ※上原美術館に寄託

学芸員による 作品解説

日時：会期中の第3土曜日 10時～(近代館) / 11時～(仏教館) ※所要約60分
会場：上原美術館展示室
参加方法：当日、展示室にお集まりください
※予約不要・ご参加には入館券が必要です
※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止になる場合がございます



■お車で 新東名高速道路 長泉沼津ICより下田方面へ 1時間40分

■鉄道・ 東京駅より特急踊り子号

■バスで 2時間40分 伊豆急下田駅下車 同駅より堂ヶ島方面行バス 20分 相玉下車 徒歩15分

東洋と西洋の美の出あい

上原美術館
Uehara Museum of Art

〒413-0715 静岡県下田市宇土金341
Tel. 0558-28-1228 www.uehara-museum.or.jp



クロード・モネ《雪中の家とコルサース山》1895年



アンリ・ルソー《両親》1909年頃



須田国太郎《薔薇》1950(昭和25)年頃



梅原龍三郎《モレー風景》1911(明治44)年



小林古径《秋》1951(昭和26)年



アンドレ・ドラン《裸婦》1929年



フィンセント・ファン・ゴッホ《饅頭を食む人々》1880年頃

絵画は語る

—上原コレクションのストーリー—